



The
Storage Hypervisor
Company

ネットムーブ株式会社

事業の透明性と競争力の源泉に 完全な仮想化でメーカーのデッドロックを回避し、 クラウドサービスがさらに進化



インタビューの冒頭、「決め手となったのはシステムの柔軟性が確保できること。それを利用して競争力を強化することを望んだ」と藤井氏は言う。「クラウドや巨大なデータを扱うサービスではCPUの処理能力が注目される事が多いが、実際にはストレージの性能が重要だと考えています。以前からストレージのキャパシティ管理によってサービス提供出来る幅が変わると考えていました」。

「SANsymphony-V」を導入する以前は、メーカーごとで複数の管理ツールを利用し、取り扱う機器によっては技術者がメーカーのデッドロックに陥る可能性が高くなってしまうことが考えられた。「これまで苦労した経験から、デッドロックに陥ることは避けたかったのです。というのは当社では、様々な目的を持ったお客様にサービスを提供するケースが多かったですからです」。近年では、スマートフォンやタブレットPCの普及で、トランザクション量やデータ量が飛躍的に増加し、ネットワークにアクセスするタイミングや頻度が変化し、それに対応するといった課題が浮上していた。

「これまでの経験だけでは予測が難しい現象が起こります。システムが停止すれば顧客だけでなく、その先の利用者にも迷惑がかかる。異なるメーカーのストレージを組み合わせて管理・運用していたので、一元的な管理は困難でした。ストレージの仮想化は当社の事業特性から必然だったと考えています」。

「品質の高いサービスを幅広く顧客特性に合わせた形態で提供できるようにする」。提供するシステムの透明性をどう高めるか——。「幅広い展開を視野に入れたビジネスを考慮に入れた場合には避けて通れない課題」と検討を重ねていった。ところが、この課題を解決する最適なソフトウェアがなかなか見つからなかった。

興味を持ったのは、ハイパーバイザーという耳なれない言葉だった。「講習を受けたときに今後の展開イメージに合う製品であると感じました」。「SANsymphony-V」はWindowsベースであれば異機種ストレージを容易に仮想化でき、メーカーのデッドロックから逃れることができる。しかもシンプロビジョンの機能を使うことで、コストパフォーマンスが飛躍的に改善することが可能である。

Key Point

導入のきっかけ

- ・異機種ストレージの統合
- ・システム柔軟性の確保
- ・サービスの品質向上
- ・リソースの有効活用とコスト最適化

導入の効果

- ・メーカーのデッドロックの回避
- ・異なるストレージの一元管理
- ・コストパフォーマンスの大幅な改善
- ・無停止のサービス運用
- ・ビッグデータ時代への体制準備

導入製品

- ・SANsymphony™-V

主なソリューション

- ・仮想サーバの共有ストレージ対策
- ・Thin Provisioning
- ・Sync Mirroring (HA)
- ・ストレージ管理の一元化
- ・コストの大幅な削減



「クラウドサービスのカナメはストレージ。それが意外に見落とされている。」と藤井氏は言う。

2011年の2月に既存システムの移行作業を始め、1か月後には本稼動という短納期だった。ストレージに対しての技術レベルは高かったのかと尋ねると、即座に「そうではありません」という答えが返ってきた。「当社には、ストレージ専門の技術者はいませんでした」という。その為、データコア・ソフトウェアの技術研修を受け、藤井氏がインプリメンテーション技術者の資格を取得し、データコアのバックアップの下で構築を行った。

「先ほども言ったように、クラウドサービスではサービスの仕組みを公開できるかどうかが、お客様の決め手になることがあります。

ホスティングサービスでは、お客様に「弊社はSANsymphony-Vを使ってストレージを仮想化しています」と説明しています。更にSANsymphony-Vは国際的に知名度が高く信頼性の高い製品ですと説明しています。今後の国際的な流れを見ると、サービスベンダーにストレージ監査が要求されることが予想される。その備えも配慮済みということだ。

導入から現在の運用に関しての技術的なサポートはデータコアが全面的に支援している。「当社の要求に対するレスポンスが早いのは、ダイレクト・サポートの体制だからだと感じます。ストレージの階層化機能を活用すれば、ビッグデータへの対応も可能になる。

今後の展望として、藤井氏は「データコアさんとパートナーを組んで、幅広いSI事業が展開出来れば良いですね」という。「当社はサービスシステムとして実際に動かし、データコアさんの信頼性の高いバックアップがある。これが強みですよね」。

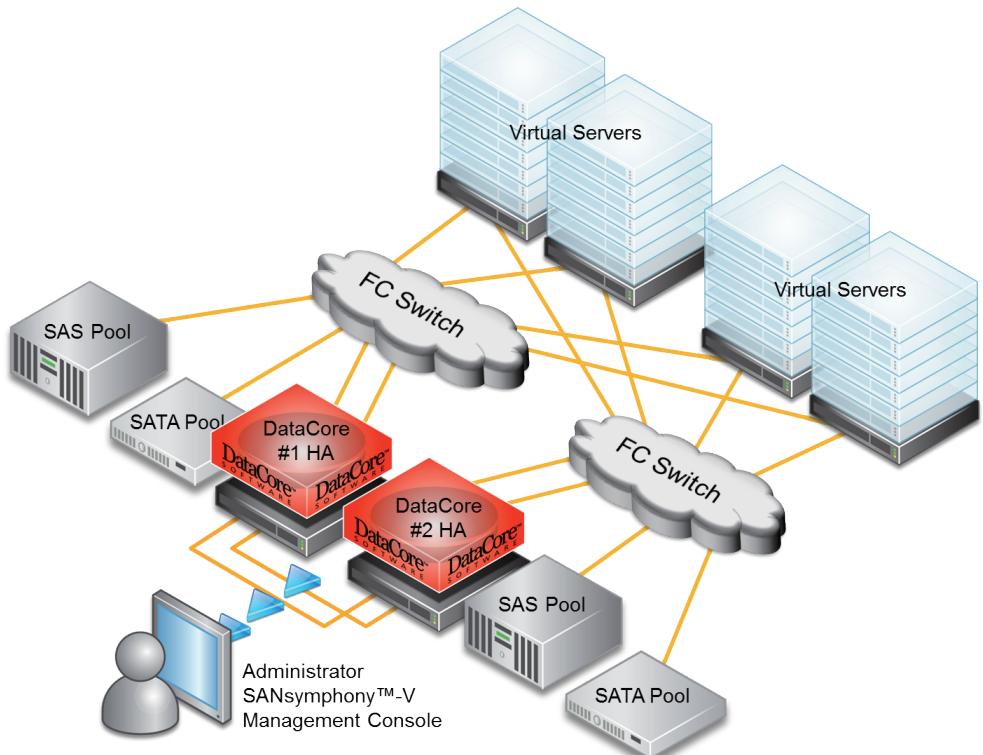


図:ソフトウェアによる全体仮想化を実現したクラウドサービスインフラ

201207

より詳細な情報は、japan.datacore.com もしくはメール datacore-japan-sales@datecore.com まで

データコア・ソフトウェア株式会社 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-14-7 秋葉原トーセイビル5F

© 2011-2012 by DataCore Software Corporation, DataCore Software K.K. All Rights Reserved. DataCore、DataCoreロゴ、およびSANsymphonyはDataCore Software Corporationの商標です。他の製品名、サービス名および社名は、それぞれの会社の商標です。

